

草地畜産基盤整備事業（草地整備【道営草地整備事業】）北海道 中西別第2地区

- 地域特有の広大な土地基盤に立脚した大型酪農の有利性をさらに引き出し、粗飼料自給率の向上、営農作業の効率化飼料生産コストの低減を図るため、草地の整備改良を行う。
- 生産粗飼料の品質・収量の向上を図り、自給飼料に立脚した、輸入飼料に依存しすぎない農業構造の確立に資する。

1 目的：

・当地区は、北海道の東部の根室振興局管内にあり国内トップの生乳生産量を誇る別海町の西部に位置している。近年、急速な規模拡大に伴い労力不足が顕在化している上、草地整備が遅れがちになり、草地の生産性の低下が顕著になっている。

・そのため、生産性低下の原因となっている起伏（ほ場の凹凸）及び急勾配を解消する整備を行い、飼料生産の効率化と牧草品質・収量の向上を図り、地域酪農の振興に資する。

2 関係市町村：野付郡別海町

3 事業主体：北海道

4 事業実施期間：令和3～7年度

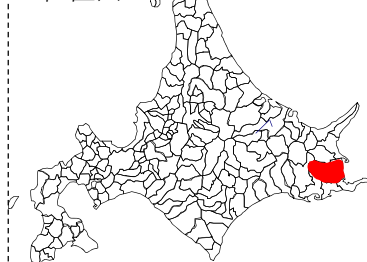
5 受益面積：658.3ha

6 整備内容：草地整備改良 658.1ha
草地造成改良 0.2ha

事業実施による効果

	現況	計画	増加割合	
飼料基盤面積	3,928.0 ha	3,928.2 ha	0.01 %	
牧草収量	26.32 t/ha	34.99 t/ha	32.94 %	
デントコーン収量	- t/ha	- t/ha	%	
家畜飼養頭数	乳用	5,876 頭	5,896 頭	0.34 %
	肉用	203 頭	203 頭	0.00 %
飼料自給率	55.6 %	60.2 %	8.27 %	

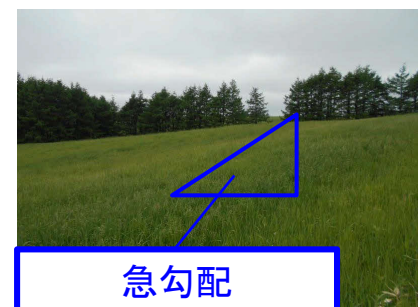
位置図



事業の必要性



起伏の発生



急勾配

急勾配および長年の営農作業により発生した起伏で機械作業の効率や牧草収量が低下する。



ブラッシュプレーカー等で土を掘り起こし、デスクハローでその土を砕く。最後はケンブリッチローラーで鎮圧をする。これにより起伏のなく生産性の高い草地となる。

事業の概要・事業の効果

【自給飼料基盤の強化】

- ・粗飼料自給率の向上
- ・営農作業の効率化
- ・飼料生産コストの低減
- ・家畜ふん尿の適正管理
- ・大型経営による労働力不足の改善

事業実施

バンカーサイロでの効率的な餌生産

